



大きな人である。見上げるような人である。190cmほどの上背があり、合気道の得意技は入り身投げであるという。

こんな人に正面打ちからの入り身投げをくらったら、それこそ二階から落とされるようなものであろう。事実、中村氏が全国大会の指導者演武でこの技をかけ、二年も続けて受けの人が脳震盪をおこしている。

三越合気道部の歴史は古い。養神館が設立されて程なく創立された筈だ。だから昇級審査の時は、塩田館長がわざわざ出張して直々に審査に立ち合っていた。なにしろ最初の指導者は現在アメリカで活躍されている串田先生だ。中村氏が三越に入社して合気道を始めたのは、昭和49年の5月だというから、もう30年間も合気道に接していることとなる。

当時は竹野先生（現、山梨養神館館長）がよくご指導にあたっていたようだ。稽古は地下にある社員食堂に畳を敷き、そこで汗を流す。隆盛を誇っていたときは100名を超える部員がいたというが、そのすぐ近くでは華道部の女子社員たちが、しずしずと花を活けている。

私もまだ白帯だった若い頃、千田師範に連れられて、何度か稽古に加わった。皆さんに親切に指導していただいたことをよく覚えているが、なにしろ三人取り自由技などというものを目のあたりに見たのは、この頃が初めてであり、中村さんなどの大きな人が宙を舞っているのびっくりしてしまった。後年ではあるが、私が塩田館長にお願いしてコンピューター業界の経営者たちに合気道の実演をお願いした時には、合気道部の畳をお借りして赤坂のホテル内に設営したこともある。

中村さんは現在5段を頂いており、指導者資格も持っている三越第7代の部長であった。

驚いたことに彼は先天性の心臓疾患を抱えており、ペースメーカーや人工弁を身につけている。

合気道を始めて夢中になり、激しい自由技をやったとき、どうも胸苦しいので検査をしたら、そのことが分ったという。26歳の時だった。

ショックであったに違いないが合気道は続けた。すごい執念である。

更に近年になって軽い脳梗塞を患った。

過去に全国大会で相手を脳震盪に落とし入れた祟りかもしれない。

それでも彼は不自由になった左手で帯を結び、合気道の指導にあたっている。

私が白帯の頃に、手を取って教えてくれた荒牧靖彦さん。

新宿本部道場での早朝稽古で、一緒に汗を流した竹内正勝さん。

いろいろとお世話になり、私にとって三越合気道部は特に親しみの持てる武道つながりである。毎年、開催される秋の全国大会の会場でお会いするのが楽しみのひとつである。